



畑作・野菜・花き生産情報 第6号

令和5年9月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ 共通事項：台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水溝の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底しよう！
- ◎ 大豆の生育は、おおむね順調です。適期収穫に向け準備を進めよう！
- ◎ 小麦は、ほ場の排水対策と土づくり、適期は種で越冬前の生育を確保しよう！
- ◎ ながいもの生育は、おおむね順調です。にんにくは適期に植付けしよう！
- ◎ 秋ギクの生育は、おおむね順調です。収穫まで適正な温度管理を徹底しよう！

畑作物

1 大豆

(1) 生育状況

ア 黒石市を除き、草丈は平年並から大幅に長く、1本当たりの稔実莢数は平年を上回っている。

イ 食葉性害虫による食害や立枯病の発生が見られる。

表－1 大豆の生育状況（9月10日現在）

場所	年次	は種期 (月日)	出芽期 (月日)	開花期 (月日)	草丈 (cm)	主茎長 (cm)	葉数 (枚)	分枝数 (本)	稔実莢数 (本)
農林総合研究所 (黒石市)	本年	5/25	6/5	7/21	97.1	61.8	13.4	2.8	27.3
	(平年差・比)	(±0日)	(±0日)	(6日早)	(93%)	(102%)	(96%)	(88%)	(69%)
	平年	5/25	6/5	7/27	104.0	60.3	14.0	3.2	39.8
	前年	5/25	6/5	7/20	121.6	84.5	15.0	4.7	31.5
野菜研究所 (六戸町)	本年	5/15	5/23	7/20	114.6	67.9	-	2.2	33.0
	(平年差・比)	(±0日)	(2日早)	(6日早)	(104%)	(101%)	-	(79%)	(109%)
	平年	5/15	5/25	7/26	110.4	67.4	-	2.8	30.2
	前年	5/16	5/25	7/27	110.3	68.6	-	2.8	23.1
藤崎町 (西中野目)	本年	6/1	6/10	7/23	99.7	-	12.2	-	39.7
	(平年差・比)	(2日早)	(3日早)	(6日早)	(107%)	-	(91%)	-	(121%)
	平年	6/3	6/13	7/29	93.5	-	13.4	-	32.8
	前年	6/6	6/17	7/27	99.0	-	12.8	-	19.3
五所川原市 (金木町嘉瀬)	本年	6/13	6/21	7/31	91.4	-	12.7	-	42.1
	(平年差・比)	(6日遅)	(6日遅)	(±0日)	(100%)	-	-	-	-
	平年	6/7	6/15	7/31	91.3	-	-	-	-
	前年	6/10	6/19	7/30	91.7	-	13.9	-	31.8
十和田市 (切田)	本年	6/5	6/12	7/27	128.7	-	14.1	-	40.6
	(平年差・比)	(2日早)	(3日早)	(8日早)	(130%)	-	-	-	(103%)
	平年	6/7	6/15	8/4	98.9	-	-	-	39.6
	前年	6/12	6/20	7/31	101.7	-	15.0	-	46.0

- 注) ① 品種は「おおすず」
 ② 平年値は、農林総合研究所が過去17か年、野菜研究所が過去16か年、藤崎町が過去12か年、五所川原市が過去10か年、十和田市が過去22か年の平均値
 ③ 本年調査日は9月11日

(2) 収穫等での留意点

- ア 立枯病発病株を確認したら、速やかに抜取りを行い、ほ場外で処分する。
- イ 台風や大雨でほ場に滞水しないよう、明きよなどによる排水対策を徹底する。
- ウ 汚粒の原因となる雑草や青立ち株は、収穫前に必ず抜き取る。
- エ コンバイン収穫では、子実水分が20%以下、茎水分が50%以下に低下した時が適期である。適期収穫に向け、コンバインや乾燥・調製施設の準備を進める。
- オ 土による汚粒の発生を防ぐため、無理に地際まで刈り取らない。

2 小麦

(1) ほ場の準備

- ア 耕起・砕土
出芽・苗立ちの確保や除草剤の効果を高めるため、耕起・砕土は丁寧に行い、砕土率（土塊の大きさ2 cm以下）70%以上を確保する。
- イ 土づくり
小麦の生育に適した土壌酸度はpH6.0～7.0である。pH6.0以下では生育が悪くなるので、苦土石灰等で酸度矯正をする。また、りん酸資材の施用は生育を促進し、分けつや稔実をよくするので、土壌中の有効態りん酸は10mg/100gを目標に改良する。有機物や土づくり肥料の施用により地力の向上を図る。
- ウ 排水対策
明きよや弾丸暗きよ、心土破碎などの排水対策を必ず実施する。
- エ 施肥
基肥は、堆肥施用の有無や連作年数あるいは前作を考慮して基準量を増減する。

表－2 土づくり肥料投入量の目安

資材名	投入量(kg/10a)
石灰資材	100～150
ようりん	100～150

表－3 地力条件と施肥量

地力条件	基肥量 (kg/10a)		
	窒素	りん酸	加里
堆肥が施用され地力が高い（野菜跡地等）	5～6	12～15	9～10
堆肥が施用されず地力が並み（基準量）	7～8	12～15	9～10
地力が低い（連作3年以上のほ場など）	9～10	12～15	9～10

(2) は種

- ア は種時期
越冬前の生育量を確保するため、9月25日頃までに、は種作業を終える。
- イ は種量
ネバリゴシ及びキタカミコムギのドリル播きによるは種量は、津軽地域では8～10kg/10a、県南地域では6～8kg/10aである。は種時期が9月第6半旬以降にずれ込む場合には、2kg/10a程度は種量を増やす。
- ウ 種子消毒
紅色雪腐病の防除のため、薬剤による種子消毒を行う。

表－4 地域及び品種別は種時期・量

品 種	ネバリゴシ・タカミコムギ・ゆきちから			(kg/10a)
	全 域			もち姫
地 域	全 域			県南
は種時期	9/16～25	9/26～30	10/1～20	9/15～25
は 種 量	津軽 8～10(標準量)	標準量に2kg程度増やす	11	6～8
県南 6～8(標準量)				

(3) 雑草防除

土壌処理剤の散布は、は種後速やかに行う。また、小麦生育期では雑草の生育が進む前に茎葉処理剤を散布する。

野 菜

1 ながいも

(1) 生育状況

ア 地下部の生育は、高温・少雨の影響で、細長い傾向にあるがおおむね順調である。

イ 病害虫は、葉渋病、炭そ病及びナガイモコガの発生が見られる。

表－5 ながいもの生育状況 (9月10日現在)

調査地点	年次	植付期 (月日)	萌芽 揃期 (月日)	つるの ネット頂 到達日(月 日)	9月10日			
					茎葉重 (g)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
野菜 研究所	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/25 (±0日)	6/23 (1日早)	7/14 (6日早)	505.0 (103%)	84.8 (123%)	1,242 (118%)	59.4 (92%)
	平年	5/25	6/24	7/20	489.0	69.0	1,053	64.9
	前年	5/25	6/26	7/17	611.0	67.2	804	60.7
五戸町 上市川	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/2 (9日早)	6/14 (1日早)	7/7 (1日早)	— (—)	88.3 (113%)	927 (94%)	52.7 (86%)
	平年	5/11	6/15	7/8	—	78.3	991	61.3
	前年	5/8	6/18	7/7	—	81.3	1,041	62.2
東北町 子ノ鳥平	本年 (<small>平年差・比</small>)	5/5 (7日早)	6/1 (5日早)	7/10 (±0日)	— (—)	78.3 (124%)	905 (118%)	54.8 (104%)
	平年	5/12	6/6	7/10	—	63.2	768	52.5
	前年	5/9	6/8	7/10	—	66.0	744	56.1

- 注) ①平年：野菜研は平成30～令和2年の3か年の平均値(種いもの頂芽の処理方法が異なるため参考値)
五戸町は平成14～令和4年の21か年の平均値、東北町は平成25～令和4年の10か年の平均値
- ②種子：野菜研は園試系6の1年子(90～110g)ガンク切除(ガンク切除時期は植付30日前、令和2年までは植付15日前の頂芽切除)、五戸町は庄司系の2年子(120～150g)ガンク切除、東北町は庄司系の1年子(50～80g)頂芽付
- ③栽植様式：野菜研は畦幅120cm×株間24cm(3,472株/10a)、五戸町は畦幅120cm×株間22cm(3,788株/10a)
東北町は畦幅110cm×株間23cm(3,953株/10a)
- ④その他：いずれの調査地点も9月11日調査

(2) 今後の留意点

- ア いもの肥大に重要な茎葉を維持するため、病虫害防除に努める。
- イ 採種ほ場では、ウイルス病株の抜取りや、媒介するアブラムシ類の防除を徹底する。
- ウ 台風などによる強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きょを手直して排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。
- エ 植溝が陥没したときは速やかに埋め戻す。

2 にんにく

- (1) 種苗増殖にあたっては、ウイルス感染及びイモグサレセンチュウ汚染拡大防止のため、種苗増殖「専用ほ場」を設置するとともに、JA等から購入した「優良種苗」を植付ける。
- (2) 植付けは10月上旬までに行い、気象情報を参考に遅れないよう計画的に作業を進める。
- (3) ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調製はできるだけ植付け直前に行う。
- (4) イモグサレセンチュウの被害は、強制乾燥終了後50日頃からりん片に現れ始めるので、種球の発根部付近の褐変や腐敗の有無を確認し、発生が懸念される場合は指導機関等の診断を受ける。また、被害種子は絶対に植付けしない。
- (5) 黒腐菌核病やチューリップサビダニ、イモグサレセンチュウの防除のため、種子消毒は必ず実施する。

3 秋冬だいこん

(1) 生育状況

- ア 高温・少雨の影響で、7月下旬から8月上旬には種されたものは、一部、発芽不良による欠株がやや目立つほ場が見られるが、は種後の生育は順調である。
- イ 病虫害は、キスジノミハムシが散見される。

表－6 秋冬だいこんの生育状況（9月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	9月10日		
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根重 (g)
東北町 乙部道ノ下	本年 (<small>平年差・比</small>)	8/8 (1日遅)	33.7 (111%)	14.4 (103%)	85.8 (128%)
	平年	8/7	30.4	13.9	67.0
	前年	8/5	29.6	11.5	41.2

注) ①平年：平成13～令和4年の22か年の平均値（本年から担当農家を変更したため平年、前年値は参考値）

②品種：S-139（前年は「勇」）

③栽植様式：畦幅48cm×株間27cm、1条植え（7,716株/10a）

④調査日：本年は9月11日

(2) 今後の留意点

- ア キスジノミハムシ、アブラムシ類、コナガなどの発生に注意し、早期に防除する。
- イ 台風や大雨に備え、明きょを手直して排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

4 秋にんじん

(1) 生育状況

- ア 地上部の生育は、平年を上回っている。地下部の生育は高温・少雨の影響で細長く、平年を下回っているものの、回復傾向にあり、おおむね順調である。
- イ 病害虫は、黒葉枯病の発生が見られる。

表－7 秋にんじんの生育状況（9月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	9月10日				
			葉長 (cm)	葉数 (枚)	根長 (cm)	根径 (mm)	根重 (g)
平川市 大木平	本年 (平年差・比)	6/20 (±0日)	60.6 (118%)	8.3 (106%)	16.1 (105%)	30.9 (85%)	59.5 (71%)
	平年	6/20	51.4	7.8	15.3	36.2	83.9
	前年	6/21	51.8	6.4	13.5	35.6	73.5

- 注) ①平年：平成9～令和4年の26か年の平均値
 ②品種：向陽2号
 ③栽植様式：畦幅150cm、5条植、株間7.2cm (46, 296株/10a)
 ④調査日：本年は9月11日

(2) 今後の留意点

- ア 黒葉枯病、ヨトウムシなど病害虫の早期発見・早期防除に努める。
- イ 葉の半数以上が地際部まで垂れ下がった頃に試し掘りを行い、M、L級を中心に収穫する。
- ウ 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

5 ごぼう

(1) 生育状況

- ア 草丈は、平年並、葉数は平年を上回っており生育は順調である。
- イ 病害虫の目立った発生はない。

表－8 ごぼうの生育状況（9月10日現在）

調査地点	年次	は種期 (月日)	9月10日	
			草丈 (cm)	葉数 (枚)
三沢市 三沢	本年 (平年差・比)	4/28 (3日早)	96.0 (99%)	4.9 (153%)
	平年	5/1	96.9	3.2
	前年	5/11	101.8	3.6

- 注) ①平年：平成25～令和4年の10か年の平均値
 ②品種：柳川理想
 ③栽植様式：畦幅110cm×株間6cm、1条植え (15, 151株/10a)
 ④調査日：本年は9月11日

(2) 今後の留意点

- ア 黒条病、黒斑細菌病、アブラムシ類の防除に努める。
- イ 台風や大雨に備え、明きょを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

6 夏秋トマト

(1) 生育状況

ア 生育は、おおむね平年並である。

イ 8月上旬以降の高温の影響により、9～13段の一部に落花、裂果、尻腐れ果等が見られているほか、着色が早まり小玉傾向である。

ウ 病害虫は、灰色かび病、葉かび病、うどんこ病、タバコガ類、アザミウマ類、コナジラミ類などの発生がみられる。

表－9 トマトの生育状況（9月10日現在）

調査地点	年次	定植期 (月日)	7段果房		9段果房		11段果房	
			開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
五所川原市 金木町	本年	4/28	7/6	2.9	7/19	2.6	8/3	2.3
	(平年差・比)	(4日早)	(5日遅)	(100%)	(1日遅)	(100%)	(1日遅)	(115%)
	平年	5/2	7/1	2.9	7/18	2.6	8/2	2.0
	前年	4/25	6/26	1.2	7/12	3.2	7/29	1.6
三戸町 斗内	本年	5/10	7/20	3.3	8/9	0.5	9/1	
	(平年差・比)	(4日早)	(2日早)	(143%)	(2日早)	(25%)	(1日早)	
	平年	5/14	7/22	2.3	8/11	2.0	9/2	1.5
	前年	5/10	7/23	3.4	8/11	2.4	9/5	2.4

注) ①平年：五所川原市は令和3年度から設置場所・担当農家を変更し、令和5年度から苗を1本仕立から2本仕立てに変更したため、平年(H29～R2)、前年は参考値、三戸町は平成20～令和4年の15か年の平均値

②品種：五所川原市は桃太郎セレクト（台木：キングバリア）、三戸町はりんか409（自根）

③調査日：本年は9月11日

(2) 今後の留意点

ア かん水は、土壌の乾湿が極端に変化しないよう生育を見ながら実施する。ただし、9月下旬以降は、過湿、多窒素で裂果が増えるので、かん水を控え、追肥は中止する。

イ 最低気温が16℃以下になったら、夜間はハウスを閉めて保温し、果実肥大や着色を促進する。

ウ 日中は、ハウスを閉めきると内部の湿度が高まり、葉かび病や灰色かび病が発生しやすくなるので、換気と薬剤散布を徹底する。さらに着色始めとなった果房の下葉を2枚残して摘葉し、通気を確保する。

エ タバコガ類、コナジラミ類等の病害虫の発生に注意し、防除を徹底する。

オ 台風や大雨に備え、ハウスの補強や施設周辺にある排水溝の点検・整備、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなどの排水対策を徹底する。

花 き

1 秋ギク

(1) 生育状況

ア 草丈・葉数ともに平年並であり、おおむね順調である。

イ 病害虫は、アザミウマ類、ハダニ類が散見される。

表-10 生育調査（9月10日現在）

場 所	年 次	品 種 名	定 植 期	草 丈 (cm)	葉 数 (枚)	備 考
五所川原市	本 年 (平年差・比)	神 馬	7月10日 (5日遅)	90.9 (97%)	46.0 (95%)	2本仕立て
	平 年	神 馬	7月5日	94.1	49.0	2本仕立て
	前 年	神 馬	7月8日	94.8	43.4	2本仕立て

注) ①平年：五所川原市は平成22～令和4年の13か年の平均値

②調査日：9月11日

(2) 今後の留意点

ア 温度管理

ハウス内の温度は、日中25℃以下、夜間15℃を目標に管理する。

イ 病害虫の防除

白さび病、灰色かび病の予防散布を定期的に行うほか、アブラムシ類、アザミウマ類、ヤガ類等の早期発見・早期防除に努める。特にオオタバコガは被覆したハウス内で越冬し、来年の発生源となる可能性があるため、防除を徹底する。

ウ 収穫

2～3分咲きを目安に採花するが、出荷先により異なるため事前に確認する。

早朝に採花する場合は、朝露に濡れたまま収穫すると荷傷みの原因となるので乾いてから行う。

2 夏秋ギク

(1) 今後の留意点

親株養成に切り下株を利用する場合は、日当たりと排水の良いハウスを選ぶ。

また、健苗を確保するため、病害虫の被害が無い健全株を選び、10月下旬までに伏せ込みを行う。

畑作・野菜・花き生産情報第7号は令和5年10月20日発行の予定です。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壌診断に基づいた適正施肥や土壌改良は、施肥コストの低減にもつながります。

緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壌環境づくりを心がけましょう！

効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

1 農薬を使用する際は、必ず最新の登録内容を確認し、適正に使用しましょう。

○農林水産省「農薬情報」

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○農林水産省「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。

3 クロルピクリン剤など土壌くん蒸剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。

4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「農薬ではない除草剤（農薬ではない、非農耕地専用などと記載）」があるので、注意しましょう。

5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。
家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。
堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壌から離れた野菜は2か月、土壌に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

- 1 自然災害リスクをカバーしたい方

農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。

※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。

- 2 様々なリスクをカバーしたい方

収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

◎野菜価格安定制度を利用している野菜生産者の皆様へ

現在、当分の間の特例として、初めて収入保険に加入される方は、収入保険と野菜価格安定制度を同時利用（2年間）することができます。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎秋の農作業安全運動展開中です（8月15日～10月31日）

秋の農繁期を迎えるに当たり、農業機械等による事故を防止するため、県では、「秋の農作業安全運動」を展開しています。

農作業安全のポイントを意識しながら、「みんなで声がけ！安全確認」を心がけ、安全第一で農作業事故をなくしましょう。

<農作業安全のポイント>

- 1 作業環境に危険な箇所がないか事前に確認し、改善・整備を行いましょ。
- 2 日中の気温の高い時間帯を避けて作業を行うほか、水分や塩分の補給、こまめな休憩を取りながら、無理のない作業を心がけましょ。
- 3 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけ合うとともに、万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入ましょ。

連絡先	農産園芸課 稲作・畑作振興グループ
県庁内線	5073
直通	017-734-9480
	野菜・花き振興グループ
県庁内線	5076
直通	017-734-9485
